

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報 第 4 号

果樹カメムシ類の果樹園への飛来について(第 2 報)

本年の新世代成虫の果樹園への飛来については、平成 26 年 7 月 24 日付け技術情報第 2 号でお知らせしているところですが、地域によってはすでに果樹園への飛来が始まっており、果実への被害の増加が懸念されますので、園内への飛来状況の把握に努め適期防除を行うよう指導願います。

1 対象作物：果樹全般（ナシ、カキ、カンキツ等）

2 病虫害名：果樹カメムシ類

3 発生状況

- (1) 県下 12 カ所における 7 月 5 半旬と 8 月 5 半旬のヒノキ球果のビーティング調査の結果、ヒノキ林での果樹カメムシ類寄生成虫数は久留米・朝倉で減少しており、ヒノキ球果からの離脱が始まっていると予想される。(表 1)。
- (2) ヒノキ球果の口針鞘数は、久留米・朝倉地域では離脱の目安とされる 25 本/球果を超えており、他の地域についても 25 本/球果に近づいている(表 1)。
- (3) 8 月 5 半旬の調査におけるカキの被害果率は、1.2%（前年 0%、平年 0.8%）と前年よりやや多く、平年並であった(図 1)。

表 1 ヒノキ球果ビーティング調査における果樹カメムシ類成虫捕獲虫数及びヒノキ球果の口針鞘数の推移

地域名	捕獲虫数(頭)		口針鞘数(本)	
	7月5半旬	8月5半旬	7月5半旬	8月5半旬
福岡・飯塚(3か所)	4.0	5.3	2.2	23.5
久留米・朝倉(6か所)	12.5	3.2	3.6	27.5
八女(3か所)	3.7	4.0	1.8	21.1

注 1 各地域とも調査地点における平均値を記載。

注 2 捕獲虫数は、ヒノキ球果を1地点5枝について1枝5回叩き、捕獲したチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの合計の成虫数。

注 3 口針鞘数は各地点25球果について調査、1球果当たり口針鞘数を記載。

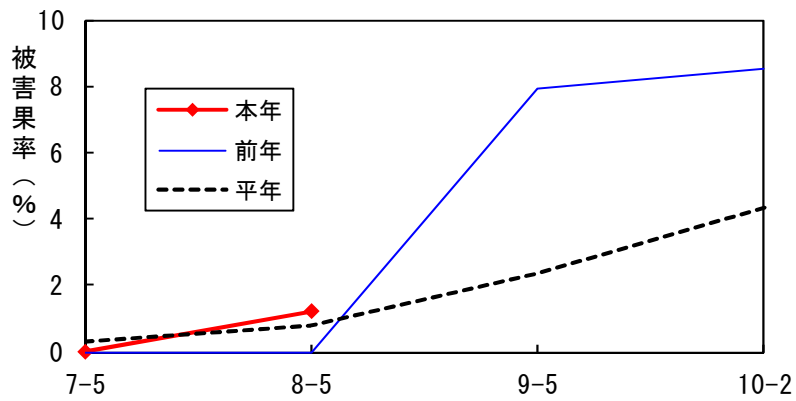


図1 カキにおけるカメムシ類被害果率の推移 (月-半旬)

6 防除上注意すべき事項

- (1) 発生は地域差が大きく、同一園内でも被害状況が異なるので、特に飛来が毎年ある園は園内を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。
- (2) 果樹カメムシ類は広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除の効果が高い。
- (3) 薬剤防除の際は、収穫前日数等農薬使用基準を遵守する。
- (4) 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、散布間隔に注意する。
- (5) 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。